

[特別活動]

「長所・強み」を生かし、どの子どもも運動に親しみ、主体的に取り組む姿を目指した運動会

—「自己選択・自己決定の機会の確保」と「異学年集団による協働必須型の競技設計」の工夫を通して—

清水 和哉*

1 はじめに

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説特別活動編では、特別活動の目標を、「集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、資質・能力を育成することを目指す。」とし、育成する資質・能力として、「多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにすること」「集団や自己の生活、人間関係の課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにすること」「自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養うこと」を挙げている。また、学校行事の目標については、「全校又は学年の児童で協力し、よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通して、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養いながら、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。」と示されている。

当校では、コロナ禍が契機となり、学校行事をはじめとした教育課程の見直しを迫られた。これまで運動会（当校では「みゆきスポーツフェスティバル」と呼称している。以下：MSF）は、平日分散開催、平日半日開催と日程を短縮するとともに、走る運動に特化し、走る運動の成果発表の機会として捉えて実施してきた。令和5年度のMSFでは、「走る運動ばかりでつらかった」と感想があり、運動が苦手な子どもにとっては、どんなに頑張っても活躍することができないと感じていた。そこで、どの子どもも運動に親しみ、主体的に取り組む姿を目指したMSFとなるように見直しを行った。

菊池（2025）は「教員主導ではなく、生徒相互が声掛けをしたり、決定したりしながら主体的に学校行事を創り上げた」ことが生活満足感や友人サポートの評価ポイントを上昇させ、教師サポートの評価ポイントを下降させたことを示していることから、子どもたちに自己選択・自己決定の機会を確保することが自分の参加する種目に対する責任感や主体性を高めるのではないかと考えた。さらに「自己決定の場を与え、自己存在感や自己有用感を感じさせることができるよう、今後も持続可能な取組が必要である。」と述べており、自己選択・自己決定の機会を確保することで子どもたちが持っている長所や強みを引き出すこととなり、その長所や強みを發揮させていくことにつながるのではないかと考えた。

丸山（2021）は体力や技能の程度、年齢や性別にかかわらず、みんなで活動できる喜び、競い合う楽しみ、他者の立場に立って物事を考える児童の育成を目指した実践において、「体育の見方・考え方を意図的に課題に組み込むことで、異学年集団のかかわり合いが生まれ、児童自身の肯定的評価につながり、授業の満足度にもよい結果をもたらした。」と有効性を認めている。このことから異学年集団による協働必須型の競技を設計することで、どの子どもも運動に親しみながら、主体的に取り組む姿が具現できるのではないかと考えた。

本実践では、「自己選択・自己決定の機会の確保」と「異学年集団による協働必須型の競技設計」を手立てに、子どもたちが持っている「長所・強み」を生かしながら、子どもたちの運動に親しむ態度や主体性の高まりを期待する。

2 研究の目的

本研究は、「自己選択・自己決定の機会の確保」と「異学年集団による協働必須型の競技設計」を保障しながら、「長所・強み」を生かし、どの子どもも運動に親しみ、自ら進んで運動に取り組むことができる運動会づくりを目指す。主に、教師の見取りと子どものリフレクションの記述、Google Formsによる子どもや保護者のアンケート結果から、運動に親しむ態度や主体性の高まりにどのような変容が見られるのかを明らかにし、その効果について検討することを目的とする。

*長岡市立表町小学校

3 研究実践の内容と方法

- (1) 研究実践対象 新潟県公立小学校全校児童155名
- (2) 研究実践期間 令和6年8月下旬～令和6年10月下旬（MSF：10月19日）
- (3) 研究実践の内容

① 「MSF」について

令和5年度まではMSFを春期に開催していた。しかし、MSFをつくり変えること、異学年交流班（以下：町校班）の出会いの場を充実させること、一緒に活動する時間（町校班活動、清掃活動、町校班遠足など）を十分に確保することを目的とし、当校の一大イベントであるMSFと町校班遠足の時期を入れ替え、MSFを秋開催とすることとした。

町校班の1～6班を白組、7～12班を赤組として組分けを行った。新しいMSFに生まれ変わることに伴い、子どもたちにもMSFの意義、魅力などについて説明を行った（図1）。子どもたちはMSFについての説明を基に計画や目標について話し合い、MSFをつくり上げていった。

全員参加種目として「学年部リレー」「応援タイム」、町校班種目として「パネルパズル」、選択団体種目として「障害物リレー」「玉入れ」「借り人リレー」「ボール運びリレー」「綱引き」、参加希望制種目として「50m走（チャレンジレース・ファンレース）」を行った。これまでは各種目の結果が点数となり、総合優勝を決定していたが、各種目終了後に表彰を行い、勝った組は校長から勝利旗（校章が入った自作の旗）を種目リーダーに受け渡すこととし、勝利旗の本数で総合優勝を決定することにした。また、オープニングには当校の4～6年生で構成した鼓笛隊による演奏、準備体操としてスポーツ委員会が考案した全校ダンス、PTAが企画した種目「Giant Ball」などを計画した。応援団、パネル団、委員会活動、種目リーダーなどが中心となり、活動をつくり上げていくことで子どもたちが活躍する場を多く設定した。MSFのプログラムは右図である（図2）。

② 自己選択・自己決定の機会の確保

参加する種目を自己選択・自己決定できるように工夫した。主に「選択団体種目」「参加希望制種目」である。

選択団体種目は、合計3回のアンケートにより、子どもたちの参加種目を決定した。1回目は、職員間で考えられる競技種目をできるだけ多く取り上げたものの中から子どもたちが興味感心のあるものを複数選択できるようにした。アンケート結果から子どもたちの興味関心が高かった5種目「障害物リレー」「玉入れ」「借り人リレー」「ボール運びリレー」「綱引き」を選択団体種目とした。2回目は、その5種目の中から自分が出場したい種目を2つ選択できるようにした（図3）。選択した2つの種目は必ず出場できることとした。3回目のアンケートで各競技の人数調整を行うため、3種目に出場したい人を募った。

参加希望制種目は、「50m走（チャレンジレース・ファンレース）」とした。「チャレンジレース」は、自己記録の更新を目指し、タイム計測を行うレースである。「ファンレース」は、MSFという特別な舞台上で異学年や先生と一緒にレースを行い、走ることを楽しむレースであり、タイム計測は行わないこととした。「チャレンジレース」「ファンレース」「参加しない」の選択肢の中から自己選択・自己決定をした。

③ 異学年集団による協働必須型の競技設計

異学年集団による協働必須型の競技となるように工夫した。主に「選択団体種目」「町校班種目」である。選択団体種目では、上記の通りにアンケート調査で子どもの願いを基に、5種目を決定した。各競技に担当者を設け、異学年集団が協働できる場となるように試行錯誤した。

町校班種目「パネルパズル」は、運営委員会を中心に企画・運営を進めた。各組で製作したパネルを18分割（3×6）し、町校班で協働しながらパネルを完成させる競技である（図4）。

異学年集団での競技であるため、朝学活の時間や隙間時間を活用して練習に取り組むなど日程調整を工夫した。仲間と協働する姿、試行錯誤しながら練習に取り組む姿、高学年がリーダーシップを発揮しつつ、合意形成を図る姿などを

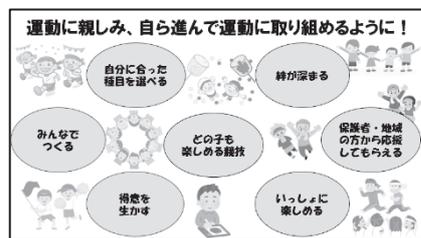


図1 MSFの魅力に関する説明資料

令和6年度 MSFプログラム				
開始時刻 8:45 ~ 終了時刻 15:00				
1	鼓笛隊	演奏	鼓笛隊 演奏	8:45
2	全校	式典	開会式	9:25
3	全校	準備体操	全校ダンス	9:35
4	全校	応援	ユーモア交換	9:40
5	町校班	団体	パネルパズル	9:50
6	希望者	個人	50m走（チャレンジレース）※	10:10
7	全校	団体	障害物リレー	10:40
8	全校	団体	玉入れ	11:00
9	全校	団体	借り人リレー	11:20
10	全校	団体	ボール運びリレー	11:40
11	全校	団体	綱引き	12:00
昼食（お弁当）・休憩				
12	希望者	個人	50m走（ファンレース）※	12:00
13	全校	応援	応援タイム	12:20
14	PTA	PTA	PTA種目 Giant Ball	13:40
15	学年部	団体	低学年リレー	14:00
16	学年部	団体	中学年リレー	14:15
17	学年部	団体	高学年リレー	14:30
18	全校	式典	閉会式	14:45

※50m走の「チャレンジレース」は自己記録に挑戦する競技、「ファンレース」は本数が異なることを楽しむ競技です。
時刻は予定ですので、進行の都合上前後することがあります。御了承ください。

図2 MSFのプログラム

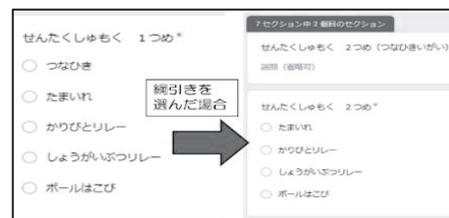


図3 Google Formsによる2回目のアンケート

ねらった。

各競技担当者は「異学年集団で可能な競技か（安全であるか）」「協働必須型の競技設計か」という視点を持ちながら素案を作成し、アイデアを出し合ったり、競技の練習を通して修正したりすることで競技の計画を練り上げた。また最小限の助言を行い、基本的には子どもたちの主体的な話合いや試行錯誤に委ねることを心掛けた。



図4 町校班種目「パネルパズル」

4 研究実践の実際

(1) 自己選択・自己決定の機会の確保

① 「選択団体種目」における子どもの様相

Google Classroomを活用し、全校に向けて候補種目となる競技の名前と参考動画を提示した。子どもたちは参考動画を見て、どのような種目なのかをイメージをした上で、1回目のアンケートを行った。アンケート結果から、5つの選択団体種目を決定した(表1)。

2回目のアンケートでは、5種目の中から2種目を選択した。また、3回目のアンケートでは、2回目のアンケート結果から分かる人数差をなくすための人数調整を行った。その際、できるだけ学年で人数が同じになるように留意し、3種目に出場する人を募集した(表2)。

選択種目の顔合わせや練習段階から、子どもたちは「自分で選んだ種目だから頑張る。」「勝てるように練習を頑張りたい。」「という声生まれ、前向きに練習に取り組む姿が見られた。また、多くの選択肢を提示したことにより「やってみよう。」「挑戦したい。」「というような声も生まれ、進んで運動に取り組む姿、新たなことに挑戦しようとする姿が見られた。MSF終了後の振り返りでは、参加種目を自己選択・自己決定したことに関して、肯定的な意見が多く得られた(図5)。

② 「参加希望制種目」における子どもの様相

50m走「チャレンジレース」「ファンレース」の説明後、Google Formsで「チャレンジレース」「ファンレース」「参加しない」の選択肢から自己選択・自己決定をした(図6)。参加希望のアンケートは、およそMSF1ヶ月前に行った。MSFに向けて練習に励む中で、希望の変更ができるように留意した。50m走では、どちらのレースも学年部ごとにタイムが近い人同士で走ることができるように編成を行った。子どもたちが自らレースを選択することに加え、異学年と一緒に走ること、タイムが近い人同士で走ったことで「全力で走りたい。」「自分の記録に挑戦したい。」「走りが得意でなくても、思いっきり走りたい。」「という声生まれた。自分の意思で参加することによって、結果的に納得感や達成感を得やすくなり、多くの子どもたちが主体的に50m走に取り組むことができた。チャレンジレース、ファンレースに参加した子どもたちからも肯定的な意見が多く得られた(図7)。

表1 Google Formsによる1回目のアンケート結果

番号	種目名	1~3年生	4~6年生	総数
1	綱引き	57	63	120
2	玉入れ	53	49	102
3	障害物競走	36	41	77
4	借り人リレー	26	32	58
5	ボール運びリレー	27	21	48
6	大縄跳び	24	23	47
7	大玉送り	20	22	42
8	台風目	14	19	33
9	ダンス玉入れ	13	9	22
10	その他(リレー)	0	1	1

表2 Google Formsによる2回目以降のアンケート結果

学年	借り人リレー				ボール運びリレー				玉入れ				障害物リレー				綱引き			
	赤	追加	白	追加	赤	追加	白	追加	赤	追加	白	追加	赤	追加	白	追加	赤	追加	白	追加
1年	6		6		3		3		6		6		2		2		9		9	
2年	4		3		6		5		5		5		7		8		8		7	
3年	4		1		3		1		4	3	7		1	1	2		6		7	
4年	1		3		1		3		8		6	2	4		3		10		9	
5年	6		8		5		3	3	6		3	3	5	2	7		6		7	
6年	7	1	8		5		1	4	8		6	2	1	5	6		9		9	
2回目総数	28		29		23		16		37		33		20		28		48		48	
3回目総数	29		29		23		23		40		40		28		28		48		48	

前回と比べて大きくMSFの形式が変わりました。良いところは自分のやってみよう競技に出場できたことです。前までは全員が出る種目が決まっていたけど、今回は自分のやりたい競技が出来たので、競技が選べるという点は良いと思いました。今回のMSFは、前回よりもとても楽しかったです。

MSFの評価は10点満点中9点でした。なぜこんな高評価なのかというと自分がやりたい種目を選べるというのがとてもいいと思ったからです。今までの運動会になかった競技がたくさんあってとても嬉しかったし、ずっとやりたかった競技ができて嬉しいと人もいたと思うからです。

図5 MSF終了後の振り返り

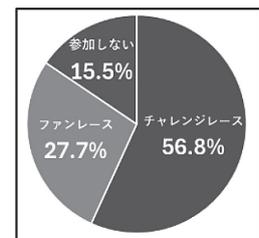


図6 50m走の参加希望調査

<p>変更されたMSFについての評価は100点満点です。なぜかと言うと、自分がやりたい競技を選択してできるし、50m走も希望制なので、50m走をやりたくない人はやらなくていいのでいい考えだなと思いました。ファンレースでは、思いっきり走ることができてよかったです。</p>	<p>自分のワンシーンは50m走の時です。理由は、自分でこれぐらい出せたらいいなという目標のようなものを立てて、走ることができたからです。本番は、全力は出しきれなかったけど8秒を切りました。そのままあと0.1秒速くなれば陸上の記録を更新できました。しかも先生にも勝てました。結構いい感じにはできたので良かったと思いました。</p>	<p>50m走でチャレンジレースをしたよ。4年生の中に混ざって走ったよ。一位をとれてめっちゃ嬉しかったよ。そして最高記録が出たよ。前までは、8.98だったけど、新記録の8.91を取ったよ。0.07秒も早くなったから来年の50m走の自信がついたよ。</p>
---	---	---

図7 MSF終了後の振り返り

(2) 異学年集団による協働必須型の競技設計

① 「選択団体種目」における子どもの様相

各競技において、同じ競技を選択した仲間を把握するため、顔合わせを行った。赤組、白組それぞれ競技リーダーを決定し、リーダーを中心に競技練習を行った。相手チームに勝つためにリーダーを中心に頭を突き合わせながら、真剣な表情で話し合いを進めていた(図8)。走順やチーム編成、作戦を具体的に確認し合い、下級生に対して優しくアドバイスをする上級生の姿も見られた。仲間の意見に耳を傾けながら、気持ちを一つにして競技に臨もうと気持ちを高めていった。



図8 相談タイムの様子

競技練習の際には、上級生が下級生を導きつつ、下級生も主体的に応じることで、リーダーシップとフォロワーシップの双方が発揮された。異学年の仲間と協働する中で相互の信頼関係が醸成され、安心して活動に参加できる姿が見られた。練習の中で互いに声を掛け合い、改善策を協議することを通して、協力的なコミュニケーションを取る姿が増え、自らの力が集団に貢献したと実感し、達成感や自己有用感を得ることができる場となった。

各競技において練習段階から異学年で協働する姿が見られた。協働することで個の力以上のパフォーマンスを発揮したり、仲間と一緒に取り組む安心感を感じたり、達成感や喜びを共有したりすることができた。結果的に運動の楽しさ、協働することが運動をより豊かにすることに気付いた。右図は各競技の様子である(図9)。



図9 選択団体種目の様子

MSF終了後の振り返りでも、各競技において自分のことだけでなく仲間のことについての記述が見られた(図10)。

<p>MSFの玉入れでは、みんなで大くさん入れて楽しかったです。下学年が練習のときよりも、たくさん入れていてすごいなと思いました。玉入れでは、白組に勝ちました。借り物競争では負けてしまったけど、玉入れでは勝つことができてうれしかったです。また来年は勝ちを目指して頑張りたいです。</p>	<p>MSFを終えて頑張ったことは、綱引きです。綱引きで綱をみんなと一緒に引くのを頑張りました。お助けで綱を引く時は負けちゃったけど、最初から綱を引くのは勝ったのでうれしかったです。</p>	<p>MSFで一番心に残ったのは、借り物競争でした。前の競技のときは白組が負けていて焦っていたので、みんなが最初からできるだけ早く走って、パネルを取りました。そして、お題にある人を選んで探すことができました。そのおかげでリードできて、白組が勝って、旗をもらうことができました。旗をもらう時は緊張しましたがうれしかったです。</p>	<p>私の振り返るワンシーンは、選択種目「ボール運び」で白組が2連勝したときです。私は白組が1回勝っている状態だったので、どうなるかとてもウキウキしていました。最後の1組になった時点で白組が1位だったので、「いける!」「頑張れ!」と応援していたら、白組が勝ちました。みんなのすごい声援が巻き起こってとってもうれしかったです。</p>	<p>障害物リレーでは1位を取ることができました。障害物リレーでは、ネットをくぐるのが難しかったです。ネットのところでスライディングをしたので転んじゃったけど、他の人が追い上げてくれたので1位を取ることができたんだと思います。引き分けだったので来年は勝てるように努力したいです。頑張りたいです。</p>
---	---	---	--	---

図10 MSF終了後の振り返り

② 「町校班種目」における子どもの様相

町校班種目では、上級生が下級生に対して声掛けや支え方を工夫しながらリードしたり、下級生が上級生に憧れを抱きながら練習に取り組んだり自然な学び合いが生まれた。パネルを正しい場所につけないと修正する必要があるため、パネルを仲間と運びながらどこにかけるか相談したり、助け合ったりする場が生まれ、協働することができた(図11)。学年の差を越えて同じ目標に向かうことで、絆が深まり、MSF全体があたたかな雰囲気でも包まれた。町校班種目においても、異学年の仲間と協働する中で相互の信頼関係が醸成され、安心して活動に参加できる姿が見られた。仲間と一緒に取り組む安心感を感じたり、達成感や喜びを



図11 町校班種目パネルパズル

共有したりすることが運動に親しみ、主体的に運動に取り組むことにつながったと考える。

MSF終了後の振り返りでも、勝敗にかかわらず運動することの楽しさやみんなで協働することができたことについての記述が得られた。(図12)。

パネルパズルでは、2年生と一緒にやるのが結構うまく出来て良かったです。パネルパズルで白組に負けただと楽しかったです。

パネルパズルが、1番頑張ったと思いました。どうしてかという、赤組のみなどで力を合わせる事ができたからです。

パネルパズルでは、私は2班だったから最初の方で間違えちゃったけど、他の班が直してくれてよかったです。その後、白はどんどん進んでいきました。1回赤組に追い越されたけど、協力したことで追い越して先にスローガンを言えたので良かったです。

図12 MSF終了後の振り返り

5 研究実践の分析と考察

MSF終了後、Google FormsでMSFに関するアンケートを行った。右図は「MSFは楽しかったですか。」「楽しかった理由に全てチェックしてください。」という項目における結果である(図13)。

MSFが楽しかったと肯定的に回答したのは98.8%であった。多くの子どもたちが新しく生まれ変わったMSFに対して満足感を示した。

楽しかった理由として、「リレーができたから(113票)」「オリジナルの応援ができたから(88票)」「家族や地域の人たちから応援してもらえたから(77票)」などといった声が上がった。これまでのMSFでも同様の評価を得られていた内容である。さらに「参加種目を選ぶことができたから(111票)」「出場できる種目がいっぱいあったから(83票)」「自分の得意なことが生かされたから(75票)」「チャレンジレース・ファンレースを選ぶことができたから(73票)」「町校班種目があったから(62票)」などと声が上がった。これは、「自己選択・自己決定の機会の確保」と「異学年集団による協働必須型の競技設計」の手立てにしたことが要因であると考えられる。その他にもスポーツ委員会が企画した準備体操としての「全校ダンスがあったから(90票)」、PTAが企画し、大人も全力で楽しみながら取り組む姿を見ることができた「PTA種目があったから(52票)」といった声も上がった。

MSF終了後に夏休み前と同様のアンケート調査を行った(表3)。「たくさん身体を動かしたり、できる技が増えたりしましたか。」の項目では、夏休み前と比べて肯定的に回答する人が4人増え、肯定的評価が98.1%となった。「身体を動かすことは好きですか。」の項目では、夏休み前と比べて肯定的に回答する人が5人増え、肯定的評価が96.8%となった。「自己選択・自己決定の機会の確保」と「異学年集団による協働必須型の競技設計」の手立てが自分の長所・強みを生かすことにつながり、運動が苦手な子どもも運動に親しんだり、主体的に取り組んだりできるように促したと言える。

保護者からも「子どもが元気よく競技したり応援したりしている様子を楽しく見させていただきました。自分が選んだ種目にチャレンジするというやり方で子どもがやる気を出していて良かったです。」「今まで見た運動会の中で一番感動した運動会でした。競技一つ一つが良く考えられていて、学年を超えて力を合わせる姿が印象的でした。」といった肯定的な評価を得ることができた。

MSF終了後の振り返り記述を解析するためにKH Coderを用いて語を抽出した。上位100位の抽出語について、結びつきの強い抽出語をグループ化し、共起ネットワーク分析を行って抽出語間の関係を視覚化した(図14)。

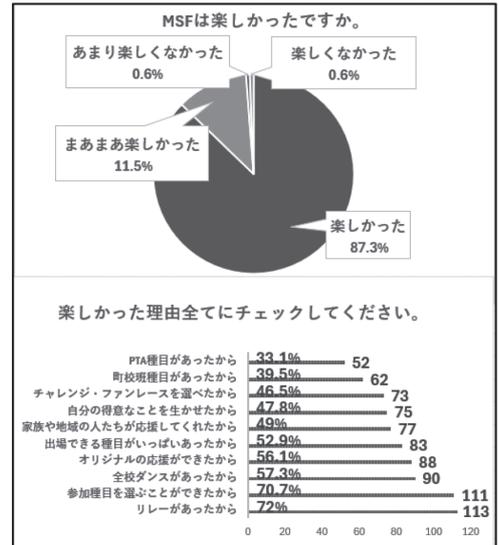


図13 MSF終了後のアンケート

表3 夏休み前とMSF終了後のアンケート結果

質問内容と回答項目	夏休み前		MSF終了後	
	回答数	割合	回答数	割合
たくさん身体を動かしたり、できる技が増えたりしましたか。				
肯定的回答	148	95.5%	152	98.1%
否定的回答	7	4.5%	3	1.9%
身体を動かすことは好きですか。				
肯定的回答	145	93.5%	150	96.8%
否定的回答	10	6.5%	5	3.2%

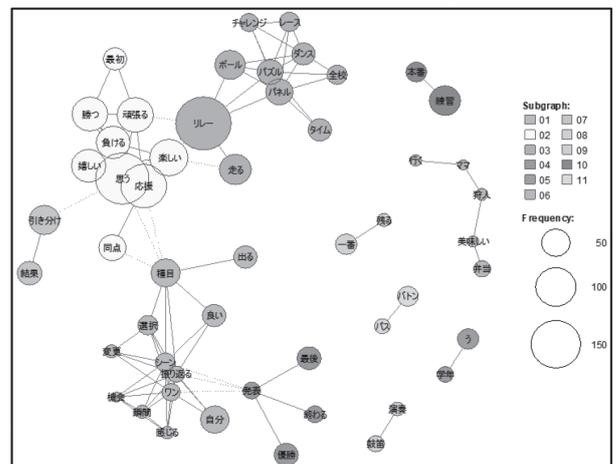


図14 MSF終了後の振り返り記述より抽出した共起ネットワーク

動詞「思う」の抽出頻度が多かったため、共起する抽出語のコロケーション統計を行ったところ、「良い」が最も多く共起しており、「MSF」「頑張る」と続いた(表4)。共起ネットワークからも「思う」-「種目」-「選択」-「出る」-「よい」という言葉が共起して出現し、参加種目を自己選択・自己決定できることがよかったという記述が多いことが分かる。

動詞「頑張る」の抽出頻度も多いため、共起する抽出語のコロケーション統計を行ったところ、「リレー」「応援」「MSF」と続き、「来年」「綱引き」などといった抽出語も出現した(表5)。共起ネットワークからも「頑張る」-「リレー」-「応援」-「勝つ」などの共起が出現した。各競技において勝ちたいという思いや来年も頑張りたいという思いが高まったと考えられる。

さらに運動に親しむことができたのかに迫るべく、形容詞「楽しい」と共起する抽出語のコロケーション統計を行ったところ、「MSF」「リレー」「玉」「障害」「ファン」などの共起が出現した(表6)。異学年集団における協働必須型の競技設計が運動に親しむことにつながったことがうかがえる。

これらの記述分析や子どもたちの様相から、「自己選択・自己決定の機会の確保」と「異学年集団による協働必須型の競技設計」を保障することで、子どもたちは「長所・強み」を生かしながら、運動に親しみ、自ら進んで運動に取り組むことができたと考える。

6 おわりに

本実践では、子どもたちが競技種目を自己選択する機会を設けたことは、子どもたちの主体的な参加を促進する結果につながった。事前のアンケートを通じて、自分の得意分野や興味を反映させた競技種目を選択した結果、競技へのモチベーション向上、達成感を得ることができ、運動に対する興味・関心が高まったと考えられる。

異学年集団による協働必須型競技を取り入れたことは、学年を超えた協力や交流を促進する結果を生んだ。上級生がリーダーシップを発揮し、協力しながら課題を解決するプロセスが形成された。このような活動を通じて、異学年集団での信頼関係が強化され、集団の一員としての責任感を高めるとともに協働の重要性を学ぶことができた。

ただ、MSF終了後のアンケートでは、少数ではあるが運動することに対して否定的な回答も見られた。50m走への参加率も高いとは言えないものだった。全ての子どもたちが「主体的に取り組めた。」と言えるかという点については課題が残る。運動能力、勝敗にかかわらず達成感や自己有用感を得るために、誰もが役割を持って参加することが必要である。そのために、子どもの声を生かしながら、競技のバリエーション増加や役割の多様化などの工夫が必要である。

引用・参考文献

- 菊池 里佳 「生徒の主体性を引き出す学校行事の工夫 -地域・教職員間の連携で生徒を支える組織づくり-」『教育実践研究』第35集, 上越教育大学学校実践研究センター, 2025年
- 丸山 雄一郎 「小規模校の特性を生かした異年齢集団によるボール運動の創造 -ターゲット型とネット型を融合したゴールボールの開発-」『教育実践研究』第31集, 上越教育大学学校実践研究センター, 2021年
- 文部科学省 「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編」東洋館出版社, 2018, p11, p116-118

表4 動詞「思う」と共起する抽出語のコロケーション統計

抽出語	品詞	合計	左合計	右合計	左					右				
					5	4	3	2	1	1	2	3	4	5
1 良い	形容詞	17	15	2	1	2	11	1	0	0	0	1	0	1
2 MSF	未知語	10	5	5	2	2	1	0	0	0	0	0	2	3
3 頑張る	動詞	8	8	0	0	3	5	0	0	0	0	0	0	0
4 負ける	動詞	6	6	0	1	0	3	2	0	0	0	0	0	0
5 応援	サ変名詞	5	1	4	1	0	0	0	0	0	0	0	4	0
6 優勝	サ変名詞	5	5	0	1	3	1	0	0	0	0	0	0	0
7 リレー	サ変名詞	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
8 一番	副詞可能	4	3	1	0	3	0	0	0	0	0	0	1	0
9 楽しい	形容詞	4	2	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2
10 今年	副詞可能	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0

表5 動詞「頑張る」と共起する抽出語のコロケーション統計

抽出語	品詞	合計	左合計	右合計	左					右				
					5	4	3	2	1	1	2	3	4	5
1 リレー	サ変名詞	11	5	6	0	0	1	4	0	0	0	0	5	1
2 応援	サ変名詞	10	6	4	2	1	2	1	0	0	0	0	2	2
3 MSF	未知語	8	7	1	0	2	2	3	0	0	0	0	1	0
4 思う	動詞	8	0	8	0	0	0	0	0	0	0	5	3	0
5 一番	副詞可能	7	7	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0
6 来年	副詞可能	6	3	3	0	1	0	1	1	0	0	0	2	1
7 綱引き	名詞	5	2	3	0	0	1	1	0	0	0	0	1	2
8 練習	サ変名詞	5	4	1	0	0	1	2	1	0	1	0	0	0
9 次	名詞C	4	3	1	1	0	0	2	0	0	0	0	1	0
10 バトン	名詞	3	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0

表6 形容詞「楽しい」と共起する抽出語のコロケーション統計

抽出語	品詞	合計	左合計	右合計	左					右				
					5	4	3	2	1	1	2	3	4	5
1 MSF	未知語	15	10	5	2	1	2	3	2	3	0	0	1	1
2 リレー	サ変名詞	7	4	3	0	0	3	1	0	0	0	0	2	1
3 レース	名詞	4	1	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3
4 嬉しい	形容詞	4	2	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
5 玉	名詞C	4	3	1	0	3	0	0	0	0	0	0	1	0
6 思う	動詞	4	2	2	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0
7 障害	名詞	4	3	1	1	2	0	0	0	0	0	0	1	0
8 ファン	名詞	3	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0
9 今年	副詞可能	3	2	1	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0
10 終わる	動詞	3	1	2	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0